

小平市公共施設マネジメントニュース

平成31年4月号

第2部 第3回（最終回）中央・小川デザインカフェ ～次の世代の施設を考えよう～

将来の人口減少、少子・高齢化など、公共施設を取り巻く環境が変化する中、市ではこれからの公共施設のあり方等について取組む公共施設マネジメントを推進しています。

中央公民館・健康福祉事務センター・福祉会館・西部市民センター・小平元気村おがわ東の複合化など基本計画の策定を、市民参加で進めています。

中央・小川デザインカフェ（ワークショップ形式）では、参加者同士でリラックスした雰囲気の中、中央公民館周辺エリアと小川駅周辺エリアの各テーマについてアイデアを出していきます。

市では、市民参加などを経て平成31年秋を目途に新しい公共施設に関する基本計画を策定する予定です。

【参加状況】平成31年3月17日（日）

① 中央公民館周辺エリア：福祉会館 小ホール	9時30分～正午	19名
② 小川駅周辺エリア：小川西町公民館 ホール	14時～16時30分	15名

【中央デザインカフェ】



テーマ：地域に愛される新建物を目指そう

全体進行：これまでの内容の振り返りを行い、参加メンバーで情報共有した後に、グループ毎にワークをし、発表を行う。

ワーク：第2部第2回と同様に「誰もが使いやすい施設の工夫」「利用者にとっての魅力」「長期的に維持するための工夫」について3グループに分かれ、担当テーマ毎にワーク①～⑤を行う。

ワーク①：財政負担を考慮しつつ質の高い行政サービスを守る視点を再び議論し、発表する。

ワーク②：市民が企画を持ち込んで活用するための視点を再び議論し、発表する。

ワーク③：民間を巻き込んで地域の賑わいを維持する視点を再び議論し、発表する。

ワーク④：地域の拠点を子どもたちに伝えていく視点を再び議論し、発表する。

ワーク⑤：この施設で働くために求められる視点を再び議論し、発表する。

全体を通して、共通点などを出す。

【小川デザインカフェ】



テーマ：小川駅前の未来予想図を描こう

全体進行：これまでの内容の振り返りを行い、参加メンバーで情報共有した後に、グループ毎にワークをし、発表を行う。

ワーク①：「こんなことがしたい」「こんな風に使いたい」というニーズを市民が協力しながら実現できる場所であり続けるための取組みを考える。

ワーク②：次世代が愛着を持てる場所にし続けるための取組を考える。

ワーク③：4・5階公共床と市民広場とのつながりを考える。

ワーク④：小川駅西口駅前とその周辺エリアの未来予想図を描こう、をテーマに考える。

ワーク後に、発表を行う。

※各グループの主な意見は裏面にまとめていますので、ご覧ください。

主 な 意 見

【中央デザインカフェ「地域に愛される新築物を目指そう」】

1 財政負担を考慮しつつ質の高い行政サービスを守る視点

・中央エリアの魅力である駐車場スペースは十分確保しつつ、場所や時間帯により一部有料化するなど、財政収入を得る検討も必要ではないか。

・複合する機能の窓口を一つにまとめるなどにより、効率性やサービスの質も向上につなげることはできないか。

2 市民が企画を持ち込んで活用するための視点

・過去のイベント情報の保存を行いアーカイブ化することで、公共施設でできることを見つけやすくしてはどうか。

・企画立案から実現までの段階的手順を示し、各段階でのフォローや関係団体とのマッチングをしてはどうか。

3 民間を巻き込んで地域の賑わいを維持する視点

・民間事業者が地域に貢献でき、かつビジネスにつながる要素があることが必要ではないか。

・行政と市民が協働して、民間事業者の企画をきちんとチェックし、マッチングさせることはどうか。

4 地域の拠点を子どもたちに伝えていく視点

・入りやすいエントランス、自由に過ごせるロビーなど、子どもたちが過ごしやすい場として演出することが大切ではないか。

・企画を工夫し、多世代交流を促すことにより、子どもたちの思い出や愛着につながり、大人になってからの活動にもつながるのではないか。

5 この施設で働くために求められる視点

・市が運営等について委託等を行った場合でも、市と事業者等との連携体制が構築されていることで、利用者への対応などが円滑に行われることが大切ではないか。

・利用者とのコミュニケーションをしっかりと、笑顔あふれる施設にしていくことなどが大切ではないか。

【小川デザインカフェ「小川駅前の未来予想図を描こう」】

ワーク1：「こんなことがしたい」「こんな風に使いたい」というニーズを市民が協力しながら実現できる場所であり続けるための取組みを考える

A：市民の行事や活動の内容が、モニターなどを通じて視覚的に発信できるようになると良いのではないか。

B：企画検討を市民等で行い、大学、福祉施設、保育園などと調整しつつ、様々な人が使いたいと思えるようなイベントを行うことが良いのではないか。

C：市民同士で情報交換できる掲示板などがあると良いのではないか。

D：相談窓口のような形でニーズを把握し、やりたいことの実現のための助言やサポートがあると良いのではないか。

ワーク2：次世代が愛着を持てる場所にし続けるための取組みを考える

A：市民広場を毎週土日は子どもの日にするなど、思い出の場所となるような取組を行うことはどうか。

B：小川のことを知らない人も多くいると思うことから、小川の歴史などを伝える取組を行うことはどうか。

C：お祭りやイベントにスタッフとして携わってもらうことで、愛着の形成につながるのではないか。

D：様々な世代が交流できるようにしつつ、学生や子どもにピンポイントで魅力的な企画の提案などをしていくことで、その友達などに輪が広がっていくのではないか。

ワーク3：4・5階公共床と市民広場のつながりを考える

A：市民広場でも使用可能な椅子などを準備して、市民広場で図書の貸し借りもできるようにしてはどうか。

B：トリックアートなどを活用し、市民広場から4・5階へ見上げる工夫などをして興味喚起をしてはどうか。

C：市民広場で青空図書館のほか、お話し会の出張など図書館の活動を見せてはどうか。

D：市民広場と4・5階との連動性をもったイベントを実施してはどうか。

ワーク4：小川駅西口駅前とその周辺エリアの未来予想図を描こう

A：活気があり、自然と調和して、将来を担う子どもたちに負担をかけないようなまちはどうか。

B：市外から人が来るような取組みを行い、商店街が活気づき市外の人がたくさんお金を使ってくれるまちはどうか。

C：障がいのある人もない人もコミュニケーションが取れ、新しいことにチャレンジできるまちはどうか。

D：生活しやすく、落ち着くエリアであり、福祉のまちとしてバリアフリーに特化するまちはどうか。

【お問合せ】 小平市 企画政策部 公共施設マネジメント課

〒187-8701 小平市小川町 2-1333 TEL042-346-9557 FAX042-346-9513

メールアドレス facility-mg@city.kodaira.lg.jp